

核兵器廃絶平和都市宣言
30周年記念誌

語り継ぐ 平和への願い



帯 広 市
核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会

も く じ

核兵器廃絶平和都市宣言 宣言文	2
核兵器廃絶平和都市宣言30周年を迎えて 帯広市長 米沢 則寿	3
核兵器廃絶平和都市宣言30周年にあたって 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会 委員長 岸本 正	4
核兵器廃絶平和都市宣言30周年に寄せて 帯広市議会議長 有城 正憲	5

第1章 平和の作品、市民からの寄稿文

1. 令和3年度平和の絵・詩・写真優秀作品及び全応募者一覧	6
2. 市民からの寄稿文	16
両親と姉三人を失って 伊澤 満洲男	16
平和のためにできることを 上田 恵子	16
「新高山上レ1208」 帯広市戦没者遺族会 会長 岡本 金作	17
核兵器は廃絶の思いを次世代につなげよう 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会 副委員長 (核兵器廃絶被爆者援護十勝ネットワーク) 金倉 久美子	17
母の被爆体験と被爆二世としての戦争・平和への想い 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会 (被爆二世プラスの会) 土谷 節子	18
30周年記念誌に寄せて 村田 歩	18
帯広空襲と私 吉澤 澄子	19

第2章 核兵器廃絶平和都市宣言の歩み

1. 主な平和事業について	20
企画展の開催、原爆移動パネル展の開催	20
「語り継ぐ核兵器廃絶・平和展」の開催、平和カレンダーの作成	20
平和の作品展・冬休み作品の開催、語り部の会の開催	22
平和コンサートの開催、戦後70年・帯広市平和祈念事業の実施	23
平和を願う木、日本非核宣言自治体協議会への加入と平和首長会議 への加盟、黙とうの実施、核実験等に対する抗議文の送付	24
2. 平和の絵・詩に入賞された方々と各年度の平和カレンダー	25
3. 核兵器廃絶平和都市宣言30周年記念事業	30
戦争と核をめぐる10年	35
帯広市核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会	36
表紙のロゴについて	36
編集を終えて	36

核兵器廃絶平和都市宣言

世界の恒久平和は、豊かで安全な生活を求める全世界の人びとの共通のねがいであり、日本国憲法の理念でもあります。

しかし、この地球上には大量の核兵器が蓄積されており、その開発は宇宙空間にまで及び、あらゆる生命の存続に脅威をあたえております。

かけがえのない地球をまもり、子どもたちにひきつぐことは、今を生きるすべての人びとの果たさなければならない責務です。

世界唯一の核被爆体験国である日本に住むわたしたちは、広島・長崎の惨禍をくりかえさないよう、全世界にむけ核兵器の廃絶と戦争の根絶を訴えつづけなければなりません。

自然ゆたかな郷土を大切にし、やすらぎのある生活をねがうわたしたち帯広市民は、非核三原則の堅持と核兵器の廃絶を求め、核兵器廃絶平和都市となることを宣言します。

帯 広 市
平成3年8月15日

DECLARATION FOR AN ANTI-NUCLEAR WEAPONS CITY OF PEACE

Lasting world peace is the common desire of all the people of the world seeking an affluent and safe life, and is one of the ideas expressed in the Constitution of Japan.

However, large quantities of nuclear weapons have been accumulated on the earth, and their development has even reached into space, thus threatening the existence of every living creature.

It is the duty of all people living now to protect our precious earth and hand it down to our children.

As citizens of the only country that has experienced nuclear bombing, we Japanese must appeal to the world for the total abolition of nuclear weapons and the termination of all wars in order that the disaster of Hiroshima and Nagasaki not be repeated.

Therefore, we, the citizens of Obihiro, wishing to preserve its abundant nature and lead a tranquil life, declare that Obihiro be an "Anti-Nuclear Weapon City of Peace", and pledge to uphold the three-part non-nuclear principle and continue to seek total elimination of nuclear weapons.

CITY OF OBIHIRO
AUGUST 15, 1991



核兵器廃絶平和都市宣言 30周年を迎えて

帯広市長 米 沢 則 寿

平成3年8月15日、非核三原則の堅持と核兵器の廃絶を求めため、帯広市が核兵器廃絶平和都市を宣言してから、令和3年に30年の節目を迎えました。

長きにわたり、幅広い取り組みを継続してこられたのは、ひとえに、この都市宣言の理念に共鳴し、熱い思いをもって活動くださった、市民の皆様のご尽力の賜物であり、心より感謝を申し上げます。

わが国では、昭和20年8月、広島・長崎に原子爆弾が投下され、数多くの尊い生命が一瞬にして奪われました。

一命を取り留めても、心身に耐えがたい痛みを抱え、今なお苦しんでいる方々が大勢いらっしゃいます。

このような悲劇を二度と繰り返さぬよう、長年にわたり核兵器廃絶を訴え続けた被爆者の方々の声が国際社会を動かし、令和3年1月、「核兵器禁止条約」が発効となりました。

核のない平和な世界に向けた人々の連帯の力強さを感じる一方、条約の実効性には課題もあり、核兵器の脅威は現在も続いています。

国際秩序の変化や国家間の競争の激化、サイバーテロや新たな兵器の開発などにより、安全保障に関わる不透明感が高まっている中であって、核兵器廃絶に向けた取り組みはますます重要性を増しています。

私たちは、被爆者の苦難を心に留め、核兵器の恐ろしさ、戦争の悲惨さや愚かさ思いを巡らせながら、平和で明るい未来を築くため、互いに手を携え、行動を続けていかなければなりません。

帯広市におきましては、これまで、多くの方々のご参加のもと、語り継ぐ核兵器廃絶・平和展や語り部の会の開催、平和カレンダーの作成など、戦争の記憶の風化を防ぎ、平和を尊ぶための様々な活動を進めてきております。

とりわけ、絵・詩・写真による「平和の作品」や平和コンサートの開催におきましては、毎年、多くの子どもたちに参加をいただいております、平和を願う思いが着実に次代へ継承されつつあると感じております。

今後とも、核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会の方々をはじめ、多くの市民の皆様と力を合わせながら、核兵器廃絶と恒久平和の実現に向け、取り組んでまいり所存でありますので、市政へのご理解・ご協力をお願いいたします。

結びになりますが、発刊にあたりご尽力いただきました皆様に心よりお礼を申し上げます。

本誌を通して、一人でも多くの方が、戦争の惨禍を二度と繰り返すことがないように、平和の尊さについて考えていただく一助となれば幸いです。



核兵器廃絶平和都市宣言 30周年にあたって

核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会

委員長 **岸 本 正**

帯広市が核兵器廃絶平和都市宣言をしまして30周年を迎えました。初代実行委員長の土谷富士夫氏、第2代委員長の前多修二氏に引き継がれ30年という節目にあたり、これまでの実行委員会の活動等を簡単に紹介させていただきます。

当実行委員会は、平成2年に当時の市長が「非核平和都市宣言市民懇話会」の設立について発案されたことが始まりです。翌年の平成3年に、当時の土谷富士夫元委員長をはじめ18名の委員によって宣言文案の検討がなされました。完成した宣言文は、まず基本的・根源的な平和への希求、次に核兵器の状況、3番目に全世界の人々の責務、4番目に日本人としての使命、最後に帯広市民としての決意、として構成されました。

平成3年7月26日に帯広市議会において宣言が決議され、「非核平和都市宣言市民懇話会」は発展的に解消され、8月2日に「核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会」が設立されました。8月15日には「核兵器廃絶平和都市宣言」記念式典が開催されるに至りました。

翌平成4年から今日に至るまで様々な平和事業が実施されてきました。主な事業としては、モニュメントの建立や帯広駅前広場に平和の木の植樹を行いました。例年実施しております事業は10件ほどとなっております。主な事業としては、原爆パネル展、サダコと折り鶴ポスター展、語り継ぐ核兵器廃絶・平和展、また8月6日と9日に市の施設での黙とうの実施、さらに平和コンサートの実施などです。平成6年度からは、幼児から中学生までを対象に平和の絵と平和の詩を募集し、優秀作品を掲載した平和カレンダーを作成、市民の皆様に配布しておりますが、毎年大変評判がよく、配布希望が多数あります。

さて、都市宣言から30年を迎えましたが、これを記念して令和3年8月15日に記念式典を開催しました。式典会場はとかちプラザで、黙とうから始まり、金倉副委員長を代表として実行委員全員で宣言文を朗唱しました。帯広市長、委員長、市議会議長の挨拶の後、広島、長崎の両市長よりのメッセージの披露、平和の詩の朗読、帯広南商業高校吹奏楽部による平和コンサートで閉会となりました。また同時にとかちプラザアトリウムで帯広空襲を語る会資料や歴代平和カレンダーなどを展示し、多くの方が足を止めてご覧になっていました。式典終了後に引き続き「語り部の会」を開催し、伊澤満洲男様により「満州からの引き揚げを体験して」と題して講演していただきました。

さらに、30周年記念事業の一環としてDVD「帯広空襲体験談 ～内壁に刺さっていた爆弾破片～」を製作しました。帯広空襲に関する状況説明と共に小室和子様、吉澤澄子様により当時の体験談が語られており後世へ語り継ぐ貴重なものとなっております。

このように、平成3年の宣言から今日まで、平和のための活動が継続でき、30周年を迎えられましたことは、市民の皆様をはじめ、関係者の皆様のご理解ご協力によるものであり、深く感謝申し上げます。次第です。



核兵器廃絶平和都市宣言 30周年に寄せて

帯広市議会議長 **有 城 正 憲**

核兵器廃絶平和都市宣言30周年の記念すべき節目を迎えられましたことに、帯広市議会を代表して心からお慶び申し上げます。

岸本委員長をはじめ、歴代委員長、核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会並びに関係者の皆様におかれましては、非核・平和推進事業について、長きにわたり幅広い活動を展開されてこられましたことに対し、甚深なる敬意と感謝を申し上げます。

さて、広島・長崎への原爆投下、そして先の大戦が終わりを告げてから、令和3年8月で76年の月日が流れました。その間、我が国は、大戦の教訓を胸に、国民の不断の努力により、平和で美しく、豊かな社会を築き上げてまいりました。

また、本市もその中であって、我が国を代表する大規模農業地帯である十勝の中心都市として、着実に歩みを進めてまいりました。

私たちが享受している今日の平和と繁栄、そして、広大な大地と豊かな自然環境に恵まれたふるさと、帯広・十勝の美しい姿は、先人の絶え間ない努力の上に築かれていることに、私たちは感謝するとともに、記憶に留めておかななくてはなりません。

帯広市が核兵器廃絶平和都市となることを宣言してから30年が経過しました。本年1月3日に、核保有5大国により、核保有国間の戦争回避や「核なき世界」の実現という目標に向け、すべての国家とともに協力したいとの内容の共同声明が発表されたところですが、今もなお、国際社会においては、領土問題や宗教、民族の違いなどに起因した内戦や紛争などにより、多くの尊い命が失われている現実があります。この都市宣言が願うところを改めて認識し、これまで以上に全世界に向け、核兵器の廃絶と戦争の根絶を訴え続けていかなければならないと考えております。

帯広市議会といたしましても、平和を願う市民の皆様の意見を踏まえた闊達な議論などを通して、先人たちが愛したふるさとを守り、誰もが安心して暮らしていくことができるまちづくりの実現を目指し、議会としての役割を全力で果たしてまいります。

結びに、30周年という節目が、平和の尊さ、核兵器や戦争の悲惨さについて、市民の皆様が今一度考える機会となれば幸いであり、実行委員会の皆様との取り組みなどにより、世界の恒久平和が一日でも早く実現されることをお祈り申し上げ、お祝いのことばといたします。

第1章 平和の作品、市民からの寄稿文

1. 令和3年度平和の絵・詩・写真優秀作品及び全応募者一覧



柏林台カトリック幼稚園年少 大西 伶



柏林台カトリック幼稚園年長 又木 里彩



森の子保育園年中 佐藤 春斗



森の子保育園年長 トウグスバトル アヌウ



緑丘小学校 4年 小林 朱莉



帯広第四中学校 3年 加藤 舞咲

大切

八月に原爆が落とされた
悲しい気持ちに包まれて
戦争が終わった。

私達はその時いなかった。

画面ごしで泣いている人を見ると

私まで泣きそうになる

この気持ちを永遠に伝えなければ、
笑顔な世界を創るために。

過去のことといって

無視してはいけない

過去があつて今がある

大切にしていこう

その喜びを

その毎日を

その笑顔な仲間達を

帯広第四中学校 3年 山口 香凜

「悲劇」を起こさないために

戦争とはとても恐ろしい二度と起こしてはならない
「悲劇」である。

それは今から昔、戦争があつて男性のほとんどが
「お国のため」、「この戦争に勝つ」などと言い遠い外
国に行き、戦争をしかけ、帰ってくるときは、ほと
んど男性の人は「小さな箱」となつて帰ってくる。
小さな箱になつた男性の家族は悲しみ落ち込む。な
ぜこんなに犠牲者が出ているのに日本は戦争をやめ
なかつたのか。国内では泣く声、外国では悲鳴や倒
れている人がいた。人はまた、このような「悲劇」
を繰り返してしまう。もう二度と「悲劇」という過
ちを繰り返さないためには一人一人が「平和とは何
か」というのを考えなければいけない。戦争で亡く
なつてしまった人の気持ちも考え、追悼して一人一
人が考えてほしい。「平和とは何か」を。また、争い
が起きないように意識してほしい。

帯広第四中学校 3年 高山 太一

平和のために

あの日落とされた

それは一瞬にして大勢の命を

人々の日常をうばった

人々は悲しみに暮れ

絶望の淵に立たされた

そのようなことがあったことを

私達は忘れてはいけない

あの日起きたことを教訓に

二度と悲惨なことが起きないように……

帯広第四中学校 3年 細野 雄太

パラリンピックを見て

東京パラリンピックを見た。

解説の人がこう言っていた。

「〇〇選手は家を着火された時に、
手もえてなくなってしまう」と。

パラリンピックには

このような人がたくさんいた。

それでも

みんな一生けん命であり、

そこには「笑顔」があった。

パラリンピックに人だけでなく、

世界中のどこにでも

家をもやされ、

手足がなくなってしまった人が

大ぜいいる。

だからこそ私たちは

爆発や、

火事などが起きないように

うったえ続けなければならない。

世界中のみんなが

平和にくらせるように

今の自分にできることを考え、

笑顔で努力しようと思っっている。

森の里小学校 5年 納 七海

戦争

今もいつとも変わらない日々。
 でも今日は違った。
 青く澄んだ空に。
 僕が飛んだ飛行機だ。
 敵軍に弾が積んで飛んで行く。
 僕が飛んだ飛行機だ。
 爆弾が飛行機の方へ落ちて、
 身をかくす。近くにあった家の防空壕へ
 とカッ！ ドンッ！
 痛いの。苦しい。熱い。
 敵軍の足音が刺さる。痛みが僕の体に走る。
 僕の右足を刺した。防空壕のドアの
 痛みをぐぐつとこらえ、辺りを見渡した。
 僕は目を疑った。
 辺りは焼け野原になっていて、
 さっさと逃げた。あつた家は跡形もなく
 消えていた。あつた場所には黒焦げの死体や、
 木片が刺さる。あつた場所には黒焦げの死体や、
 ガラスの破片が刺さる。あつた場所には黒焦げの死体や、
 木片が刺さる。あつた場所には黒焦げの死体や、
 辺り一面が焼け、あつた場所には黒焦げの死体や、
 ほっとりと家屋が焼け、あつた場所には黒焦げの死体や、
 体中から血が流れ、あつた場所には黒焦げの死体や、
 僕は奇跡的に生き残った。
 今でもあの日の思い出す。
 ツンと鼻の奥を刺すような焦げた匂い。
 辺り中を駆け回ると、あつた場所には黒焦げの死体や、
 今でも耳に残る黒焦げの死体。
 「熱い。痛い。苦しい。誰か……」
 と助けを乞う人々の悲鳴。
 あの日に国民全員が願っていた平和が
 今も此処にある。若者が此処に笑顔を零す。
 僕が望んでいた平和が此処にある。
 この平和は失いたくない。
 戦争は家族も何もかも奪っていくか。
 そんな戦争も意味はあるのだろうか。

帯広第四中学校 3年 大沼 千莉

笑顔と手

今咲く花 今昇る太陽 今開く未来
 その中に咲く笑顔は
 数えきれない
 今広がる森 今輝く月 今進む道
 その中に広がる笑顔は
 数えきれない
 今
 世界には泣いている人がいる
 周りの植物だって悲しんでいる
 手を取り合うことはできないだろうか
 その手は笑っているだろうか
 笑顔を送るとその植物もきっと
 笑ってくれる
 笑顔と手
 この魔法で
 人と人とが結びついたなら
 いつか優しい「平和」に変わるだろう

帯広第四中学校 3年 池原 透真



「龍雲」 明和小学校6年 平岡 怜大



「平和の花」 梅村 明



「新緑のひととき」 大井 雪絵



「お父さんはラビがすき」 笠原 美香子



「なかよし」 平岡 あゆみ



「君といつまでも」 竹見 真由美

平和の作品 全応募者

平和の絵

川大武又松大徳長本高丸清八安山柴渡広平	口西藤木林西村澤田下山木本田田邊瀬岡	凜里 愛滯幸姫誠明雄芽かえ葵美大	凜樹伶翔音大愛咲人果大生鈴で生遥和	凜樹伶翔音大愛咲人果大生鈴で生遥和	村大戸佐菊西桂佐アダム遠一東川田村橋山グマハ部	上内田々木地本井藤アダム遠一東川田村橋山グマハ部	華心菜音陽いちか春翔永大莉琉大冬明日想	怜大郎華姫凜葵か斗音成助央巴翔音菜コキ	石伊井宇宇内大松神門後佐篠高高原高トウグスバトル日	川黒藤上見美田江澤谷脇藤原井堂橋野	結友咲彪志萌々航綾琉彩日湊次那輝梨アヌウ航	菜晴凜希砥麻香朗望翔奈銘華那輝梨アヌウ航	平箕村山和吉寺又成藤大田畑宮真森小加	原浦上本田尾木田原山川野田貝田林藤	陽花蓮詩珠道優乙祐心利玲一桜朱舞	鞠帆音進栞湊依夫花葉菜佳音世色莉咲
---------------------	--------------------	---------------------	-------------------	-------------------	-------------------------	--------------------------	---------------------	---------------------	---------------------------	-------------------	-----------------------	----------------------	--------------------	-------------------	------------------	-------------------

平和の詩

佐々木関井船高村石篠中宮佐池大新	悠柊華優太環玲駿敦透木陽	友斗花花一步菜力奈祐也真凜菜	久細若笹佐渡工羽根田竹石横三戸小	保野井谷藤邊藤田辺内井溝部門	翼太希惺也海輔月輝涅典輝涅優理	柴李武二佐山西品小殿神中米三	田瓶藤口原田松内山森田木	勇鈴悠心睦香道夏落桃愛幹喬	気亜里暖月凜生海呼匠花賀汰司	平福郷杉上齊大塚大納宇佐美	野井原本土泉本沼	葵隆瑚雄谷隆春竜千七健	生希子基隼翔菜生莉海翔
------------------	--------------	----------------	------------------	----------------	-----------------	----------------	--------------	---------------	----------------	---------------	----------	-------------	-------------

平和の写真

梅大	村井雪	明絵	笠原美香子 竹見真由美	平岡あゆみ 平岡怜大
----	-----	----	----------------	---------------

2. 市民からの寄稿文

両親と姉三人を失って

伊澤 満洲男

昭和二十年八月一七日、現地引き揚げを決め、阿城の二〇〇〇部隊に避難。

ここに暮らしていた関東軍の将校たちは家族を連れてソ連参戦の前に日本の帰国開拓民は「棄民」とされた。

陸軍病院を経て十一月、阿城の大規模な難民収容所に移動して越冬。

長屋の一軒に五家族ほどが入居。

旧日本軍が残していった食料や石炭、それも昭和二十一年二月まででいよいよ食料も底をつくが、当時の阿城の副県長は高粱と大豆の特配をしてくれ、そのおかげで餓死を免れる。

しかしその直後に銃殺された…。

収容所の生活では、父、母、姉、兄(四男)と私。

昭和十九年、「長男」「次男」「三男」男達根こそぎ召集された。

四男の兄は途方にくれた。

難民収容所に今度はソ連兵が姿を現す。

女性目当てにライフル銃を手に家捜。

姉はソ連兵に襲われたことも有り、火鉢を倒して難を逃れた。

その後はソ連兵が姿を現すと屋根裏に避難した。

十二月には九人家族のうち父、母、姉三人(五人)次々と目の前で死を迎えた。

避難生活にも少しは慣れた頃、流行性感冒が流行し始め、家族のほとんどが感染。

私と姉(五女)は感染しなかった。

熱がどんどん上がり、四十度ぐらいで頭を冷やすしかなく、井戸端から氷を取り、姉と二人で家族の為に必死で夜昼分かたずの看病をしたが、それも虚しく次々と死んでしまった。

収容所の生活の中で多くの仲間達が死んでいった。

～終戦避難抑留生活～

吾々八紘開拓団は、開拓実績もさることながら、一番誇りに思う事は、あの敗戦直後の動乱期には

とんどの開拓団に暴徒と化したその中で、満州開拓の国是たる「五族協和」の大目標を、常日頃皆が毎日の生活を通し実践し、融和に心がけた。

現地引き揚げ避難に際し、一人の犠牲者もなく、むしろ現地の中国人が危険を省みず、長蛇の夜行軍にて集結地「阿城駅」まで蜿蜒五里の間、馬車にて送ってくれた。

難民収容所の陰惨な生活に、食料や家族の火葬をするための木材や高粱がらを持って来てもらった。

また春には出面として雇ってもらった。

平和のためにできることを

上田 恵子

帯広空襲の犠牲者遺族の石川美津野さんは、夫を日中戦争で、長女キヨミさんを帯広空襲で亡くされ、失意の中、次女民子さんを大学に入れるため辛く厳しい行商を続けられていたと聞いた私は昔、版画カレンダーのモデルに描いた「リヤカーを引く人」ではないかと思い、証言集を読みました。

「昭和20年7月15日の帯広空襲で娘のキヨミが無残にも機関銃にうたれ、はてなく命を奪われたあの恐ろしい日を一日も忘れることができません。

二重三重の苦しみを受けたものとして世に訴えたい。

それはもう二度と戦争をしてはならないという以外にありません。」という言葉は、何度読んでも戦争さえなければと怒りと悲しみが湧いてきます。

40数年前、交流のあった行商中の石川さんとの会話は旬の野菜や花のこと日常茶飯事だったと思います。確かな記憶は残っていないのが残念ですが、明るく逞しい人柄に惹かれて働く人をテーマの版画カレンダーに2年に渡り描いていたことが嬉しくて、空襲を語る会事務局にお届けしたのでした。

今年度は帯広市核兵器廃絶平和都市宣言30周年とのことで平成3年の宣言文を読みました。石川美津野さんの短歌「戦時下に受けた痛手の癒え

がたく平和を奪いし戦を憎む」への鎮魂にも感じ、心救われ感激しました。

現在、スペイン在住で核兵器廃絶をスペイン語圏に発信している広島被爆者の後神尊子さんと帯広で折り鶴の会活動をされていた頃の出会いや、私の小学校一年生時担任の鶴澤希伊子先生が一昨年「知られざる拓北農兵隊の記録」を出版され、東京大空襲で焼け出され、帯広市上清川町で拓北農兵隊の家族であったことを知り、又帯広空襲を語る会創設に尽力され証言を続けておられる吉澤澄子さんとの出会いが帯広空襲や空襲犠牲者のことを知るきっかけになりました。

今年は戦後77年、今は亡き石川美津野さんや高齢で語り続ける先輩たちから学んで私も、孫や子に戦争のない平和な時代を残せるよう微力ながら力を尽くしていきたいものと心新たに思っております。

「新高山上レ1208」

帯広市戦没者遺族会
会長 岡本 金作

1941年(昭和16年)11月5日の御前会議の決定によって、永野日本軍司令部総長から山本五十六連合司令官に大海令第1号が発せられ、11月26日、機動部隊が択捉島の単冠湾からハワイ真珠湾をめざして出港した。

12月1日0時までには日米交渉がまとまれば帰航する予定であったが、交渉は打開の見込みはなく、「新高山上レ1208」の指令(開戦決定)を受け12月8日未明、空母から攻撃機が飛び立ち奇襲には成功した。

一方、対米最後通牒はハワイ襲撃30分前に米側に手渡される予定であったが、野村・来栖両大使がアメリカのハル国務長官に覚書を手渡したのは、ハワイ空襲の最中であった。

米国ルーズベルト大統領は、アメリカ議会に日本に対する宣戦布告を要請し、アメリカ上・下院はこれを可決した。

日本では12月8日午前7時の臨時ニュースで「帝国陸海軍ハ8日未明西太平洋ニ於イテ米英軍と戦闘状態ニ入レリ」と大本営陸海軍部の発表を国民に伝えた。

戦局は昭和17年のミッドウェー海戦の敗退を機に日本軍は不利となり、その後、ガダルカナル島撤退、アッツ島全滅、インド、ビルマ国境のインパール作戦の失敗、サイパン島の玉砕と続き、破局

の道に進む。

昭和20年8月6日広島、8月9日長崎に原子爆弾が投下され、広島では20万人、長崎では7万人の市民が亡くなられた。

今なお、多くの国民が原爆後遺症に悩まされています。

日本の敗戦が昭和20年8月15日。

日本はポツダム宣言(日本軍国主義者・戦争指揮勢力の除去、日本の主権を本州・北海道・九州・四国と諸小島に限定、軍隊の解除、戦争犯罪人の処罰、軍事産業の禁止)を受け入れた。

戦後76年の今年も、広島では「黒い雨」裁判があり、国は判決を受託したが、今も戦争の傷を背負って苦難の生活を強いられている国民が多数いる事を、我々は忘れてはならない。

核兵器廃絶の思いを次世代につなげよう

核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会
(核兵器廃絶被爆者援護十勝ネットワーク)

副委員長 金倉 久美子

市民の願いを受け、元市長の公約で始まった核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会30年という歴史を振り返ってみますと、長期間にわたって運動してきたと感慨深いものがあります。

市民・市民団体・帯広市が作り上げてきた画期的な運動です。

被爆国日本として核兵器の恐ろしさを市民に伝えることは、日本のどこに住んでいても必要です。

「核兵器廃絶被爆者援護十勝ネットワークの会」は、32年前に発足し、被爆者援護法を本当に被爆者の願いに応える中身にと運動してきました。

被爆者は二度と自分たちのような犠牲者を出さない、だから世界から核兵器をなくそうと弱体を押して日本と世界中に出向き体験を話しています。

十勝でも、被爆者団体「おりづるの会」事務局長の中村悦雄さんと後神尊子さんが、学校でも、何処でも体験を話しに出向きました。

しかし、被爆者にとって話す度に、苦しみ悲しみの深い傷がよみがえりつらい思いをしたことでしょう。

年に4回ほどの実行委員会で活発に討論を重ね、子どもたちと市民に活躍してもらおう場をと、幼児から中学生まで詩と平和の絵を募集し、平和カレンダーを作成、平和コンサートを開催し被爆者

の体験を聞く会などいろいろ取り組みを重ねてきました。

広島・長崎をはじめ日本中や世界の街で戦争、平和について子どもたちが学ぶ平和教育が行われています。

非常に大切なことです。

これからは、被爆者、戦争被害者の方々の、証言を聞く機会が少なくなります。

帯広市が作ったDVDや写真パネルの貸し出しを行っています。有効に活用しましょう。

30周年の式典にあたり広島、長崎市長からのメッセージに「2021年1月に国連で「核兵器禁止条約」の発効が歴史上初めて実現しました。世界の流れは、そこまで来ています。しかし被爆国日本は批准していません」とありました。

残念なことです。

しかし、被爆者2世3世や多くの市民と力を合わせていかなければなりません。

次世代につなげることが私たち国民の役割です。

皆さん一歩進みましょう。

母の被爆体験と被爆二世としての戦争・平和への想い

核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会
(被爆二世プラスの会)

土谷 節子

私の母は、広島で爆心地から1.6kmにあった勤務先の貯金支局で被爆いたしました。

その時の閃光、爆音、爆風はいつもとは全く違う異様さを感じ取り、咄嗟に机の下に身を隠すように潜り込んだと言っておりました。

時間の経過も分からぬままに同僚の方と二人で外に出ようと、4階からの階段を下り逃げる途中、懇意にしていた管理人さんの幼い娘さんが、お腹が裂けた状態で倒れ息絶えていて、これは徒らなぬ事態が起きていると恐怖に慄きながら建物の外に出て、視界に広がる光景は、朝出勤した景色とは全く異なる生き地獄の世界に変わり果てていました。

母は生前よく、ドラマや映像に再現された原爆の様子を観ると、必ず「こんなもんじゃない」と苦々しく口にしていたのを覚えております。

建物の外は全身火傷で火ぶくれになった人々や大怪我で身動き出来ない人達、川辺に水を求め、折り重なるように倒れこんだ人達で溢れている様

は、言葉に出来ない地獄絵だったと言っておりました。

方向感覚が無いまま、何としても親元に帰ることしか考えず向かっていた時、偶然親戚の伯父さんに再会し、伯父さんと一緒に逃げようと言われたが、自分の向かう反対方向だったので断り、自分の感覚を糧に親の待つ家路へとむかったそうです。

後で分かったのですが、その時伯父さんと共に逃げていたら火の海に向かっていて、多分生きては帰れなかったそうです。

やっと家路に辿り着いた時、既に日も暮れて辺りは真っ暗の闇の夜になっていたそうです。

両親は命からがら帰宅した娘の変わり果てた姿を見て、驚愕と共に、泣き崩れてしまったそうです。

母は逃げる事で精いっぱい、自分がどんな状態かも分からぬまま歩き続けてきたのです。

その日の朝、白地に紫の水玉模様のブラウスは、血の色に染まりボロボロに裂け原形を留めぬ姿になっていました。

母は、頭から背中や腕に爆風で吹き飛ばされた無数のガラスの破片が突き刺さった状態で、皮膚は何か所も剥がれ落ちていました。

両親の驚愕する姿を見て、初めて自分の姿を認識したそうです。

両親は直ぐ救護班のある場所に連れて行き、ガラスの破片の除去をしてもらったそうですが、30か所も有り、何週間後にも、皮膚に埋もれたガラス片が出てきて、大きな傷跡として残っております。

母の背中を流す度に夥しい傷跡をなぞりながら、被爆者である母の生き証人としての存在を知らしめて居るのがこの傷跡なのだとは何時も感じておりました。

母は自分の悲惨な被爆体験を、娘の私にはよく話してくれたのですが、兄や弟には「楽しい話ではないから」と詳しく話すことはありませんでした。

命を繋いでくれた母の想いと共に、被爆二世として平和の尊さと戦争の悲惨さを後世に語り伝えていくことが母の遺言のように感じております。

一人一人の言葉のリレーで平和の尊さを語り継いでいきたいと思っております。

30周年記念誌に寄せて

村田 歩

「日本はアメリカと戦争やったんですか」と聞いた若者が居たという話に驚いたのも、ずいぶん昔のことだったような気がする。

敗戦後すでに70年以上も経過し、「戦争」を戦った人たちの殆どはこの世を去ってしまう時代になった。

「戦争の記憶が薄れていくときこそ、また戦争が始まることになる」のではないかと恐れている。

太平洋戦争の末期、日本の戦況は悪化して北海道にも米軍機が飛来するようになった。

小学校の6年生になった私の唯一の「戦争」体験である。

1945年7月25日、帯広にも米軍のグラマン戦闘機が襲ってきた。

敵機の襲来と聞いて私は慌て、タコツボ(一人が立って入れるほどの穴)に避難した。

そこから見上げた西の空に、超低空で飛来する機影が目に入った(当時はまだプロペラ機の時代)。

操縦席のパイロットの顔がはっきり見えたのを覚えている。

そのとき私の頭上で爆弾が離れた。

私は教えられた通り、両手で目と耳を押さえ、爆発の瞬間を想像して恐怖に震えた。

どの位の時が経ったのだろう。

敵機が去った後で分かったことは、我が家から300メートルほどの十勝大橋の近くに着弾したことだった。

犠牲者が出ていた。

戦争で人が死ぬんだということを具体的に知った。

つい今し方まで元気でいた人が死ぬ。

これが戦争なんだということを身に染みて感じた。

それから間もない8月15日、帯広小学校の校庭に集められた私たちは、ラジオから流れる「神天皇」の声を聞かされた。

初めて聞く天皇の肉声、独特の口調と雑音の多いラジオが何を云っているのかと戸惑っていると、誰かが「日本は負けたんだ」と云った。

「神の国日本」は、最後には「神風」が吹いて勝てるんだと教えられ、敵の上陸に備えて本気で「竹槍」を作って待ちかまえていた軍国少年の挫折感は大きかった。

学校で習ったすべての価値観が一夜にして否定されたショックは大きかった。

帯広空襲と私

吉澤 澄子

終戦から76年たって、今年も第41回帯広空襲を語る会を開催する予定です。コロナ騒ぎでこの2年間は集会の形をとらず記念碑への参加者の任意な訪れを待つ形をとりましたが、ゆっくり話し合いをできる日を心待ちしています。私自身89歳になった今、どうしてもっと早くからこの活動に取り組みなかったのかと反省しています。

1979年、帯広空襲で3人のお子さんを空襲で亡くされた高橋キソさんの家族の事を、北海道空襲の記録「はまなすのかげで」(先生方の戦争体験の記録)に掲載したことから活動が始まったのですが、バラバラになった皆さんと繋がる事ができ、1982年第1回目になる集いを持ちました。

続けたいとの意見で、2年目に記念碑建立が決まり、1985年夏には「記念碑」の建立と秋には「証言・帯広空襲」第1集を発刊いたしました。

記念誌は現在第5集まで出ています。

帯広空襲が予想外の経験だったこともあります。空襲直後からの憲兵等からの点検が厳しくあり、「被災地からにげるな」「空襲にあったことを喋るな」等と脅かされ、大人達は貝のように口を閉じて終戦迄、勝利を信じていました。

第1回目の集いでは、空襲以来の皆の思いが噴き出した感じで、会場の二階がおちるのではないかと心配しました。

天皇の詔勅のあと、「天皇の馬鹿やろ。何が神の国だ。」と子供3人をなくしたキソさんが思わず怒鳴ったと聞いて、小学生がびっくりしていました。

大人になっても思い出して夜中に飛び起きたりは私も時々ありますし、最近では事故の多い「オスプレイ」が落ちてこないかと怒り心頭です。

子供達が戦争に行くことが絶対ないように大人は守る義務があります。

軍備の拡大は、地球を破壊するだけです。

選挙権が18歳以上になり、若い人たちが政治に関心を寄せることが出来るような清潔な政治を是非実現させたいと思います。

第2章 核兵器廃絶平和都市宣言の歩み

1. 主な平和事業について

平成3年5月9日、非核平和都市宣言市民懇話会から市長に対して「非核平和都市宣言に関する提言」が行われ、帯広市議会による決議を経て、同年8月15日、帯広市は「核兵器廃絶平和都市」を宣言しました。非核平和都市宣言市民懇話会は発展的に解消し、平成3年8月2日に核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会となりました。

ここでは、帯広市と核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会で実施してきた様々な平和事業を紹介します。

企画展の開催（平成16年度から開催）

原爆の恐ろしさや当時の被爆者の様子などを伝えていくため、資料を広島平和記念資料館等から借用し、毎年、主に7月下旬・8月上旬の間に、藤丸8階の市民活動交流センター等において展示会を実施しています。

テーマは随時、見直しを行っており、例年、多くの方にお越しいただいています。



(令和3年度 サダコと折り鶴ポスター展)

原爆移動パネル展の開催

帯広市が所有する原爆の被害と平和の大切さを伝えるパネル等を、学校や十勝管内の自治体等に貸し出しています。



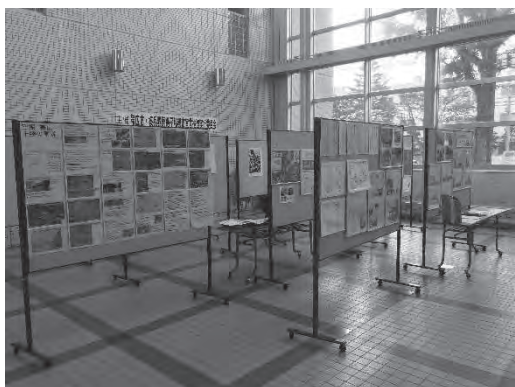
(広尾町でのパネル展)

「語り継ぐ核兵器廃絶・平和展」の開催（平成16年度から開催）

市民の皆さんと平和への思いをともにするため、原爆に関するパネルのほか、帯広空襲を語る会による展示、東北海道現代俳句協会・新俳句人連盟による原爆忌俳句の掲示、ビデオ上映など、様々な展示等を行っています。

平成16年度に現在の名称としてから、毎年、8月上旬の1週間ほどの間、帯広市役所1階の市民ホール等において実施しています。

この平和展と前述の企画展においては、広島・長崎にお送りする千羽鶴の作成と、『核兵器禁止条約』の早期締結を求める署名など、各種署名活動へ多くの方に協力いただきました。



（語り継ぐ核兵器廃絶・平和展）



（広島に寄贈した千羽鶴）

平和カレンダーの作成（平成6年度から実施）

未来を担う市内の幼児から中学生を対象に、平和のありがたさや平和を愛する心を育むため、平和の絵・詩を募集し、優秀作品を掲載したカレンダーを作成しています。

作成したカレンダーは市民へ配布し、平和への意識向上に努めています。

【核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会 米澤監事より】

核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会として、毎年継続して取り組んできたのが「平和カレンダー」の作成です。

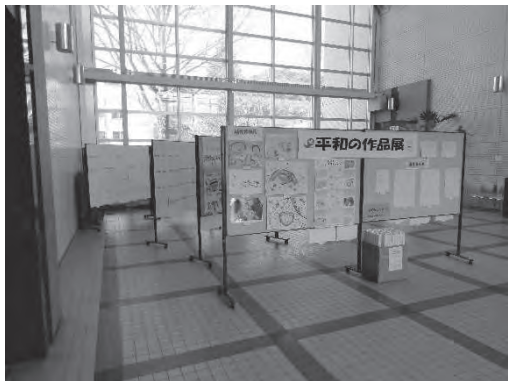
私たちは、多くの子どもたちから送られてきた「平和の絵」「平和の詩」の作品を厳選に審査をして、「優秀賞」の選考をさせていただきました。しかし本来、どの作品も「優秀賞」だと考えます。子どもたちの反戦・平和に対する「思考」が強く表現された立派な作品だからです。これからも、子どもたちの未来のために「平和カレンダー」の作成が求められています。



（表彰式）

平和の作品展・冬休み平和展の開催

子どもたちからいただいた全ての作品を帯広市役所1階の市民ホールにおいて展示する平和の作品展と、優秀賞受賞作品と原爆パネル数点を帯広市図書館の展示コーナーにおいて展示する冬休み作品展を、毎年、12月・1月にそれぞれ実施しています。



(平和の作品展)



(冬休み平和展)

語り部の会の開催（平成16年度から開催）

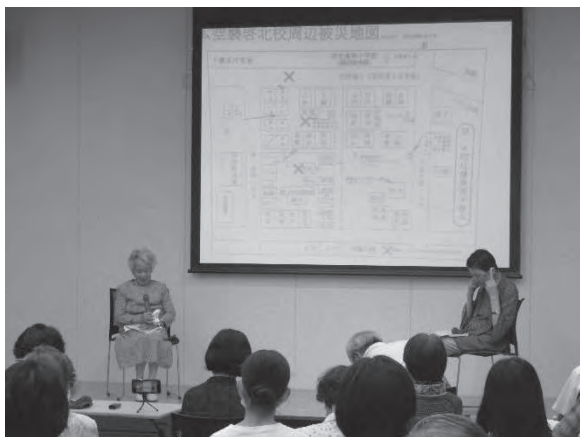
戦争体験者の方などのお話を通じて、広く市民の方々に戦争・原爆の悲惨さ、平和の尊さを伝える場として、語り部の会を実施しています。

語り部の高齢化に伴い、平成23年度に一度中止しましたが、帯広空襲を語る会の協力のもと、平成27年度より再開しました。

【核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会(帯広空襲を語る会) 青柳委員より】

平成27年度の服部史郎さんから語り部の紹介やお手伝いをしてきました。心がけてきたのは、一工夫加えること、子どもたちにも伝わるように話していただくことです。直接聞く語りは、戦争体験者はもちろん、戦争未体験の語り部からでも、心に残ります。帯広市が関わる中で「語り部の会」が続いていることはとても意義があると思います。

語り部が減っていく中、今まで語ってこなかった戦争体験者と、語り継ぐ次世代の語り部を探しています。



(令和2年度 語り部の会)

<開催実績>

年 度	語り部の方	来場者数
平成27年度	五味 和男氏 服部 史郎氏	36名
平成28年度	平山 年子氏	15名
平成29年度	参納 弘義氏	45名
平成30年度	土谷 節子氏	32名
令和元年度	浅見 知恵美氏	30名
令和2年度	小室 和子氏	60名
令和3年度	伊澤 満洲男氏	91名

平和コンサートの開催（平成5年度から開催）

戦争の恐ろしさ、悲惨さを忘れることなく、音楽を通じて平和の尊さを訴えていくことを目的に、平成5年度から継続的に取り組んでいます。

内容は、音楽の演奏のほか、平和の詩の朗読も行っています。

開催日は原則、広島・長崎に原爆が投下された日に合わせて実施してきています。



（とちぎプラザ アトリウム）



（帯広市役所 市民ホール）

<10年間の開催実績>

年度	出演者	来場者数	年度	出演者	来場者数
平成24年度	帯広朗読研究会 なすの会 帯広三条高等学校吹奏楽部	150名	平成29年度	西陵中学校吹奏楽部	120名
平成25年度	帯広朗読研究会 なすの会 藤原 志津花 氏	150名	平成30年度	帯広南商業高等学校吹奏楽部	110名
平成26年度	帯広南商業高等学校放送局・吹奏楽部	100名	令和元年度	広陽リコーダーアンサンブルクラブ	120名
平成27年度	板倉 竹香 氏	90名	令和2年度	とちぎっこストリングオーケストラ	100名
平成28年度	竹下 さとみ 氏 井上 理那 氏	100名	令和3年度	帯広南商業高等学校吹奏楽部	138名

戦後70年の取り組み

平成27年度に、戦後70年の節目を迎えたことから、平和への思いを新たにすため、オビヒロホコテンへの出展のほか、戦争に関する紙芝居の読み聞かせの実施、絵と詩が対象だった平和の作品募集において写真の部門を追加するなど、各種事業を拡大して取り組みました。



（オビヒロホコテンへの出展）



（東児童保育センターでの紙芝居読み聞かせ）

平和を願う木

平成11年の駅周辺区画整備において、国際ソロプチミスト帯広様より、「平和を願う木 シンボルツリー」として、駅前北側広場にハルニレの木を寄贈いただきました。

現在は、経年によって木の腐食などが見られた際、不定期的に腐食箇所への薬剤塗布や削りなどの治療を行っています。



(ライトアップされた平和を願う木)

日本非核宣言自治体協議会への加入と平和首長会議への加盟

恒久平和の実現に向け、自治体間が手を携えながら取り組みを進めていくため、帯広市は平成4年に日本非核宣言自治体協議会へ加入、平成20年には平和首長会議へ加盟しました。

また、平成30年には、日本非核宣言自治体協議会が実施する「親子記者事業」に、北海道ブロックを代表して帯広市在住の杉原さん親子が選ばれ、おやこ記者として長崎市を訪問しました。



(杉原さん親子の副市長表敬訪問)

黙とうの実施

毎年、原爆が投下された8月6日および8月9日に、市役所本庁舎等において黙とうを実施しています。

核実験等に対する抗議文の送付

核兵器廃絶平和都市を宣言して以降、近年ではアメリカや北朝鮮、ロシアなど、核実験等を実施した各国に対し、その都度、帯広市長名で抗議文を送付しています。

2. 平和の絵・詩に入賞された方々と各年度の平和カレンダー

(敬称略・学年は全て応募当時)

平成24年度

平和の絵

- ・吉田 妃花 (帯広の森幼稚園年少)
- ・森田 桃代 (きたのくにこども園年中)
- ・五十嵐洋輔 (帯広の森幼稚園年長)
- ・五十嵐陽奈 (森の里小学校2年)
- ・奥 麻里香 (北海道帯広聾学校小学部1年)
- ・兒玉 夏海 (川西中学校2年)
- ・長田 翔也 (川西中学校2年)

平和の詩

- ・高橋 湖恋 (大空小学校2年)
- ・長谷川温音 (広陽小学校4年)
- ・大橋 知弥 (花園小学校6年)
- ・長崎 彩華 (緑園中学校2年)
- ・西山 樹蘭 (緑園中学校2年)
- ・福田 奈菜 (緑園中学校2年)

2013年 平和カレンダー



核兵器廃絶平和都市宣言

応募者名

吉田 妃花	森田 桃代	五十嵐 洋輔	五十嵐 陽奈	奥 麻里香	兒玉 夏海	長田 翔也
-------	-------	--------	--------	-------	-------	-------

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

帯広市 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会

2014年 平和カレンダー



核兵器廃絶平和都市宣言

応募者名

松浦 璃子	外山 侑奈	吉田 結娃	大橋 茉珠	山崎 瑞季	桃井 文峻
-------	-------	-------	-------	-------	-------

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
---	---	---	---	---	---	---	---	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----

帯広市 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会

平成25年度

平和の絵

- ・松浦 璃子 (森の子保育園年中)
- ・外山 侑奈 (森の子保育園年長)
- ・吉田 結娃 (豊成小学校1年)
- ・大橋 茉珠 (花園小学校4年)
- ・山崎 瑞季 (川西中学校2年)
- ・桃井 文峻 (帯広第七中学校2年)

平和の詩

- ・西山ゆすら (開西小学校6年)
- ・乗島 瑚子 (豊成小学校3年)
- ・塚原 美咲 (柏小学校4年)
- ・大橋 茉珠 (花園小学校4年)
- ・大橋 知弥 (帯広第四中学校1年)
- ・安達 佳佑 (南町中学校2年)
- ・原田 恵太 (南町中学校2年)

平成26年度

平和の絵

- ・野中 謙信 (森の子保育園年長)
- ・吉田 妃花 (帯広の森幼稚園年長)
- ・工藤 侑摩 (北海道帯広聾学校小学部1年)
- ・村上 真菜 (稲田小学校6年)
- ・井村 風花 (帯広第七中学校2年)
- ・水口 理子 (帯広第七中学校2年)

平和の詩

- ・西山ゆすら (緑園中学校1年)
- ・工藤 萌絵 (大空小学校4年)
- ・栞島 瑚子 (豊成小学校4年)
- ・樂山 愛乃 (若葉小学校4年)

2015年 平和カレンダー

核兵器廃絶平和都市宣言

帯広市 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会

平成27年度

平和の絵

- ・外山 陽向 (森の子保育園年中)
- ・森 生衣 (森の子保育園年長)
- ・平岡 怜大 (やまびこ保育所年長)
- ・納 実月 (森の里小学校1年)
- ・春日井 冴羅 (帯広第七中学校2年)
- ・武田 裕二郎 (帯広第七中学校2年)

平和の詩

- ・石井 景子 (豊成小学校1年)
- ・丹治ひなの (豊成小学校3年)
- ・石井 絢子 (豊成小学校4年)
- ・寺澤 采花 (豊成小学校4年)
- ・長島 彩来 (豊成小学校4年)
- ・西山ゆすら (緑園中学校2年)

核兵器廃絶平和都市宣言

帯広市 核兵器廃絶平和都市宣言推進実行委員会